



## 「青少年のための事業を主催して」



秋田県青少年交流センター  
所長 三浦善治  
(指定管理者:財団法人秋田県青年会館理事長)

北極からの寒気の張り出しが厳しく例年よりも大雪に見舞われた今冬も、あっという間に雪解けが進み、穏やかな春の訪れが間近になりました。間もなく、当センター周辺の桜の樹の芽もほころんでくるものと思われま

す。日ごろ、当センターの運営について、ご理解とご協力をいただきありがとうございます。  
青少年教育振興のために青少年を対象とした様々な研修を行うとともに、青少年団体の活動拠点として交流の機会を提供し、県民の様々な生涯学習の場として広く活用されることを目的としていることを念頭に、県教育庁生涯学習課のご指導のもと、今年度の主催事業を運営してきました。重点目標として、「青少年の自立につながる社会参加活動の推進を図る」「児童生徒の学校教育外活動の支援に努める」「韓国の平澤市青少年文化センターとの相互交流を通して、高校生の国際感覚の育成に努める」等を掲げましたが、多くの幼・保育園児、中学生、高校生、大学生、青年及び県民にご活用いただきましたこと、心より感謝申し上げます。特に、今年度の新規事業である「青少年国際交流事業」においては、県内各高校、大学生ボランティア、ホームステイ先家庭、岩城少年自然の家及び保呂羽山少年自然の家等のご協力のおかげで、大きな成果を上げることができました。また、「なまはげきゃんぷ」は、夏と冬の2回、3泊4日の日程で開催されましたが、参加者自らきゃんぷの歌を作詞したり、研修先で撮影した写真を農業科学館写真コンクールに応募するなど、充実した研修となりました。今後も、研修内容の充実に努めてまいりたいと考えております。

さて、以下に、今年度の主催事業のご報告、セカンドスクールの利用状況及び利用メニュー、また、平成24年度の主催事業一覧を紹介いたしますので、よろしく願い申し上げます。

# 今年度の主催事業から

## 高校生徒会交流会議



5月27日(金)～28(土)、青少年交流センターにおいて1泊2日の日程で実施しました。県内26高校から59人の生徒会役員が参加しました。

実行委員の進行によるアイスブレイクや、チームワークトレーニングとしてのグループワーク「アイドルを探せ」が行われました。また、フリートーク①では、「学校祭の企画の工夫について」、「地域と高校生の関わりについて」、「2011北東北インターハイでの役割について」、フリートーク②では「東日本大震災からの復興について、高校生にできること」、「国際交流について」をテーマに活発な話し合いが行われました。

参加者からは、「短期間で沢山の知識を取り入れることが出来た。それぞれの視野の広さや角度の違いなどで意見を聞くのは楽しかった」「自校に戻ったら、話し合いの際に押しつけでなく相手を尊重し、話を聞き、否定・肯定だけでなくどうしたら良くなるのかななどの“本当の話し合い”をしたいと思った」等の意見がありました。

## 青少年団体間交流会



6月11日(土)、青少年交流センターで実施した。6つの青少年団体8名の参加者であった。開式の後、アイスブレイクで始まった。ネームトスで緊張がほぐれ、ブロックモデルでグループの協力関係が構築された。

記念写真撮影をし、続いて各団体の活動状況の報告に入った。初めて参加した団体に対しては、他の団体が興味津々で、活発な質疑応答がなされた。

また、秋田県青少年交流センターの運営と今年度の主催事業について、主催者から説明があり、理解を深めていただいた。

## ユースボランティア交流会



7月2日(土)～3日(日)に1泊2日の日程で、岩城少年自然の家を会場に、開催した。参加者は、高校生6名、大学生15名であり、これに講師1名、スタッフ6名(秋田県青少年交流センター3、岩城少年自然の家3)が加わった。



1日目は、ネームトスの後、プロジェクトアドベンチャー(テレフォンボールシャッフル、ニトロクロッシング、ジャイアントシーソー、アイランズ、モフォーウォーク)が行われ、仲間との「信頼」や「協力」を体感し、コミュニケーションが深まっていった。この後、グループごとにナイトハイク用提灯作り、野外炊飯を行った。ご飯は、日本赤十字社秋田県支部の竹澤氏のご指導のもと、災害用移動炊飯器を使用して炊き上げた。辺りが暗くなり、ナイトハイクが行われた。各グループごとに提灯を持ち、「たぬきコース」を巡った。道に迷い、不安に駆られたグループもあったが、無事踏破した。



2日目、竹澤を講師に、演習が行われた。東日本大震災による被災地でのボランティア活動体験及び緊急時の応急手当、救急救命法についてであった。参加者からは、初対面の人との野外炊飯やPAは、コミュニケーションをとりながらやらなければならない大変だったがいい経験になった等の意見があった。

## 青少年国際交流

(第1期:韓国・平澤市青少年文化センター「韓中日国際交流キャンプ」参加)



新規事業。7月23日(土)～28日(木)に5泊6日の日程で実施しました。

参加生徒は予定より多く12校、18名となった。韓国・平澤市、中国・寧波市の高校生、日本・松山市の中学生の4団体が参加した国際交流であった。



キャンプ開会式、歓迎セレモニー、韓国伝統文化体験(トホ、ゼギチャギ、ハヌルタンビヤルタン、ユツノリ、チマ・チョゴリ等)、「私たちの物語」での各国の青少年の生活についての情報交換、舞峰山修練院でのペインティング協同作業、平澤湖芸術館・平澤港広報館の見学、韓国料理(チヂミ、カルビトッポッキ他)づくり、ローリングペーパー(チーム別の手紙)、キャンプ閉会式(キャンプ映像の上映、各団体の出し物の披露、認証書の授与、あいさつ)、ホームステイ(2日間)等を通して、思い出に残る研修となり、別れを惜しむ涙があちこちに見られた。



「青少年相互交流協定」が締結され、第1回目の交流となったが、大きな成果を収めた。2月下旬には、韓国の高校生が秋田を訪れることになった。

参加者からは、「この国際交流に参加して本当に良かった」「言葉、文化、人などの様々な出会いがあり、私たちは精神的に大きく成長できた」「6日間の経験が私たちを次のステップに導いてくれた」等の感想が述べられた。

## ユースパルまつり



8月21日(日)、青少年や青少年団体に実践活動や発表の機会を提供し、お互いに交流を深めるとともに、地域の方々にユースパルの施設を開放するという目的で、「ユースパルまつり～今、青少年交流センターが熱い!～」が開催された。



参加者は、スタッフを含めて1,000人であった。県内青少年団体・教育施設等のパネル展示、体験活動(アウトドアチャレンジ、伝承遊び)、アトラクション(和太鼓、ヤートセ、カボエイラ、県立大学竿燈、マジック、大抽選会)、ユースパル朝市(金農・大農、海洋少年団、農近ゼミ)、フリーマーケット、屋台村、大浴場一般開放、無料休憩場等が館内外で賑やかに行われた。今後も、一層地域とともに歩むユースパルを追及していきたい。

## なまはげきゃんぷサマー編



9月8日(木)～11日(日)に3泊4日の日程で、鹿角市中滝ふるさと学舎を拠点に開催された。人付き合いは苦手だが、様々な能力や可能性を秘めた青少年に自然体験や生活体験への取り組みを通して、社会参加を目指したきっかけづくりを支援することを目的としている。

参加者は、スタッフを含めて15名であった。

1日目は、鹿角市尾去沢の長泉寺で座禅・写経体験が行われ、静かな環境で自分を見つめ直すきっかけとなった。この後、食材を買い出し、自炊が始まった。



2日目、北秋田市の西根鍛冶工場で鍛冶体験、大館市の中野産業で涼しい山中にある十和田石の掘り出し現場を見学し、昼食は、藤里町のサフォークの館でとった。夕食は、グループごとの参加者メニューでそれぞれ張り切って準備し、おいしくいただいた。夜は、コミュニケーショントレーニングを実施した。



「なまなげきゃんぷの歌」完成

3日目は、中滝ふるさと学舎で窯焼きピザ体験の後、大館神明社の秋祭り見学・お参りをした。夕食後、参加者から自然と湧き上がった「なまはげきゃんぷサマー編」の歌を作詞することになり、今までの見学・体験の感想を歌にした。作曲は、スタッフの原田さんである。

最終日、中滝ふるさと学舎周辺の滝巡りをした後の昼食時、なまはげきゃんぷサマー編の歌が披露され、全員で合唱した。昼食はおにぎり中心で残り物整理となったが、全員笑顔であった。こうして、全プログラムが終了した。

## 対人関係能力向上セミナー「ユースパル夜学塾」



10月19日(水)～22日(土)、青少年交流センターで実施した。プログラムは、3日目までは夜7時30分から8時30分までで、その後は、自由交流の時間とした。最終日は、午前10時から12時までの日程であった。

参加者は、スタッフを含めて15名でした。

1日目、CHRプログラム「他己紹介ゲーム」で始まった。

2日目、NPOコアセンタースキップラボの吉田理紗さんを講師に講座

①「青年夜会議」が開催され、グループトークが行われた。

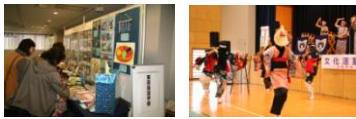
3日目は、秋田経済研究所の加賀谷信也さんを講師に講座②「秋田県の経済の現状と課題」と題して、資料をもとにお話いただいた。

最終日は、国際教養大学の勝又美智雄教授を講師に講座③「国際化による秋田の活性化について」と題して、秋田県の将来について提言いただいた。

参加者からは、「もっと堅苦しい研修会だと思っていたから、来年もやるなら参加したい」「異業種交流を楽しみにしている」等の感想が寄せられた。



## 文化活動発表展



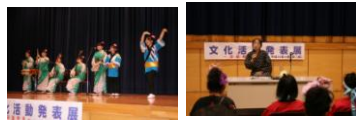
11月5日(土)～6日(日)、秋田県青少年交流センターを拠点または利用する青少年団体や高校生、大学生の他地域の人々を含めた文化活動の成果を発表・展示することを目的に開催した。

研修室では、特別支援学校3校(能代、天王、栗田)の紹介及び作業製品・作品の展示、青少年団体の紹介展示、市民の絵画展示、聖園学園短大の学習成果の展示がなされた。

多目的ホールでは、和太鼓演奏、ヤートセ演示、秋田弁の昔語り、マジックパフォーマンス、和洋女子高校・羽後高校の郷土芸能発表があり、多くの市民に楽しんでいただいた。

また、和室では、囲碁・将棋の交流戦が2日間にわたって繰り広げられた。

出場者は100名、訪れた市民は300名であった。



## なまはげきゃんぷウィンター編



(農業科学館フォトコンクールに応募)

1月19日(木)～22日(日)に3泊4日の日程で、今年度2回目のなまはげきゃんぷが開催された。拠点が大郷温泉あつたか山で、ウィンター編である。

1日目は、美郷町のヤマダフーズ見学であった。納豆の出荷額が全国第4位の会社で、丁寧な説明と気持ちのこもった挨拶が印象的で、帰りには、納豆をお土産にいただきました。夕食後、コミュニケーショントレーニング①が行われ、自己紹介の後、今日1日で楽しかったことについて発表し合いました。

2日目は、大仙市のまがり家「みずほの家」を訪問し、餅つき体験をし、あんこ、きな粉、ごま味で試食しました。また、雑煮も作ってくださりおいしくいただきました。みずほの家の隣には、餅の館があり、餅に関するすばらしい展示に感動しました。午後は、農業科学館を訪れました。展示を見学した後、豆腐づくりを体験しました。うまく豆腐が出来るか不安でしたが、しっかりかき混ぜて適温でにがりを入れ、うまく出来上がった時には達成感がありました。豆腐とおからをあつたか山のコテージに持ち帰り、早速夕食のおかずにししました。コミュニケーショントレーニング②で記録写真を見ながら振り返りを行いました。

3日目、美郷町のアスパラガス栽培農家～藤井農場～を訪れました。りっぱなアスパラガスがすくすくと育っていました。ここでもお土産をいただきました。次に、大仙市神岡の花火製造会社「和火屋」を見学しました。花火の製造過程を学習した後、完成品を持たせてくださいました。夕食後のコミュニケーショントレーニング③では、まがり家、農業科学館、藤井農場で撮った写真を農業科学館の写真コンテストに応募するため、その作品にタイトルを付けたり、写真の説明書きをみんなで相談しました。応募作品は、11名20点でした。

今回のきゃんぷ参加者は、スタッフを含めて22名でありました。

## 高校生リーダー養成「ニューリーダーセミナー」



2月24日(金)～25日(土)に1泊2日の日程で開催された。今回は、韓国の高校生と交流する機会ともなった。参加生徒は、県内27高校から71名(男子35名、女子36名)と韓国の高校生15名(男子6名、女子9名)であった。

1日目は、アイスブレイクから始まり、開講式の後、講演(「リーダーとして身につけてほしいこと」講師:国際教養大学 邊 姫京 氏)があり、「自分を知る、相手を知る、進んで行動する」というメッセージが実践された。次に、学校紹介発表があり、県内3校(秋田北鷹、由利、横手清陵学院)と韓国の高校生のプレゼンテーションがあり、積極的な意見交換がなされた。1日目最後のプログラムは、演習「サバイバル」であった。サバイバルの旅における設問を各グループごとにコンセンサスを図るものであった。「多くの意見により、参考になった」「グループでの活動は、ためになった」との感想があった。この後就寝までは、和室での賑やかな自由交歓となった。

2日目は、分科会①生徒会活動の活性化について ②地域と連携した生徒会活動 ③日本を元気にするイベントを考えてみよう]を行い、「これからの高校や秋田の方向性を話し合うことができた」「この交流が刺激になった」などの感想が出された。最後に、閉講式があり、研修のまとめを行った。

そして、韓国の高校生とのお別れである。

## 青少年国際交流

(第2期:韓国 平澤市の高校生の受け入れ)



2月23日(木)～27日(月)の5日間の交流である。韓国・平澤市から15名(うち、第1期参加者は11名)の高校生が来秋した。

秋田中央高校と由利高校とのでの交流が行われた。

秋田中央高校では、全校上での歓迎の他、授業(音楽・体育)への参加、生徒会・韓国修学旅行生との交流であった。

由利高校の生徒(18名)は、吹雪模様の寒い日曜日にもかかわらず、「雪遊び体験」で交流いただいた。

「ニューリーダーセミナー」では、7月の韓国・平澤市での国際交流キャンプに参加した県内の高校生14名を含む27校、71名の生徒とアイスブレイク、講演時の演習、学校紹介発表・韓国の高校生活発表、CHR研修「サバイバル」、自由交歓で交流が深まった。

また、1日だけと短かったが、県内高校生及び「秋田・韓国留学生支援会」からご紹介いただいた家庭でのホームステイも経験した。

この他、秋田を知ってもらうため、ねぶり流し館での竿燈体験、なまはげ館・男鹿真山伝承館でのなまはげ見学及び国際教養大学の視察も行った。

青少年国際交流は、韓国・平澤市青少年文化センターとの相互交流協定を締結して初年度の交流である。今後、これを育てていきたい。

## 青少年の居場所づくり「ゆうスペースAKITA」



- ・ 5月 7日(土)「花見会」(参加者:12名、スタッフ:8名)
  - ・ 8月20日(土)「ユースパルまつり」準備(参加者:6名、スタッフ3名)
  - ・ 8月21日(日)「ユースパルまつり」当日(参加者5名、スタッフ:8名)
  - ・ 10月29日(土)「秋の鍋っこ」(参加者:12名、スタッフ:6名)
  - ・ 1月22日(日)「なまはげきゃんぷスマイル交流会」  
(参加者12名、スタッフ:8名)
  - ・ 2月 4日(土)「新春のつどい」(参加者:9名、スタッフ:10名)
- ※ 毎週水曜日:コーチが「ゆうスペース」にいます。  
他の曜日にも、コーチがいる時があります。

# セカンドスクールの利用状況

2月末日現在のセカンドスクールの利用について報告します。

利用校(園)種	利用校数				利用人数(実数)			
	県北	中央	県南	全県	県北	中央	県南	全県
幼・保育園	0	8	0	8	0	438	0	438
小学校	0	2	0	2	0	115	0	115
中学校	17	12	10	39	2450	1628	1038	5116
高等学校	0	1	0	1	0	82	0	82
特別支援学校	0	0	1	1	0	0	36	36
専修学校	1	1	1	3	84	74	52	210
計	18	24	12	54	2534	2337	1126	5997

### ○セカンドスクールの利用とは

児童生徒が学校を離れた場所で、様々な自然体験、社会体験、共同生活体験等を行い、その活動を教科学習として授業時数にカウントできるシステムです。児童生徒の自ら学ぶ意欲や社会の変化に主体的に対応する能力(生きる力)を育むことをねらいとしています。

#### ○青少年交流センターでは

- ①秋田市中心部に位置し、教育・研究・体育・文化施設等に近い立地条件を生かし、様々な体験活動・施設見学を行う際の拠点として最適です。
- ②学校や学年単位の利用で、教育課程に位置づけられた授業(各教科、特別活動、総合的な学習等)として実施する場合、研修室利用料金が無料となります。
- ③受け入れ研修(仲間作り活動)として、PA系ゲーム[アイスブレイキングを中心としたレクゲーム]、ニュースポーツ[キンボール、室内ペタンク]、CHR研修[コミュニケーション能力向上を図る自己啓発研修]の研修メニューがあります。実施については、当センター研修班が直接指導します。

- ※PA系ゲーム……100人くらいまで 60分程度
- ※ニュースポーツ……50人くらいまで 90分程度
- ※CHR研修 ……160人くらいまで 120分程度



- ④宿泊と食事には、青少年料金が適用されるほか、マイクロバス(28人乗り)の利用(要申込)も可能です。

## 平成24年度 青少年交流センター主催事業一覧（予定）

学校外教育 支援事業	高校生徒会交流会議	県内高校の生徒会役員が一堂に会し、充実した生徒会活動を推進するための情報交換を行い、生徒会のネットワークを形成します。実行委員を募集し、生徒主体の運営を目指します。	5月18日(金)～19日(土) 会場: 青少年交流センター
	高校生リーダー養成 「ニューリーダーセミナー」	様々な分野の高校生リーダーが集い、充実した活動を推進するための研修と情報交換を行い、必要な資質の向上を目指します。	2月15日(金)～16日(土) 会場: 青少年交流センター
	青少年国際交流 (秋田と韓国の高校生の相互交流 (秋田と中国の高校生との交流))	海外青少年との相互交流を通じて、交流先の文化や歴史を学ぶとともに国際感覚を身に付け、グローバル化に対応する青少年の育成を図ります。	7月26日(木)～30日(月) (秋田が韓国を訪問) 8月9日(木)～13日(月) (韓国が秋田を訪問)
青少年の自立・ 社会参加活動 支援事業	青少年団体間交流会	ユースパルに入居する団体を中心に、各青少年団体に呼びかけ、各団体間の活動等の情報交換を図るとともに、連携と協力を深めます。	6月16日(土) 会場: 青少年交流センター
	ユースボランティア交流会	青少年ボランティアグループの活動活性化のために、相互の交流を図るとともに、充実した活動を行うための資質の向上を図ります。	7月7日(土)～8日(日) 会場: 岩城少年自然の家
	ユースパルまつり	ユースパルを拠点又は利用する青少年団体等や高校生、大学生のほか地域の人々を含めた文化活動の成果を発表・展示する機会として行います。また、地域に対して施設の開放を行います。平成23年度実施の文化活動発表展と統合して開催します。	10月7日(日)～8日(月) 会場: 青少年交流センター
	青少年社会参加促進特別対策事業	人付き合いが苦手だが、様々な能力や可能性を秘めた若者(青少年)に自然体験や生活体験等を通じ、社会参加を目指したきっかけづくりを支援します。また、青少年の居場所を提供し、ボランティア団体等と協力して相談活動等多様な活動を行います。	なまはげきやんぶ 期日、会場: 未定 ゆうスペースAKITA 通年 会場: 青少年交流センター
	対人関係能力向上セミナー 「ユースパル夜学塾」	よりよい人間関係を創っていくための方法を学習し、コミュニケーション能力の向上を図るとともに、職場等の枠を超えた交流を図ります。	9月19日(水)～22日(土) 会場: 青少年交流センター
	ユース社会参加活動セミナー	社会人としての心構えやボランティアなどの社会貢献について考え、社会参加活動促進に必要な基礎知識の習得を図ります。	12月22日(土)～23日(日) 会場: 青少年交流センター
	市町村公民館連携事業	市町村公民館や地域社会との連携を図り、青少年や団体活動の発掘、育成をめざし年間を通して社会教育活動を展開します。	年間 会場: 県内3地区公民館
地域青年リーダー養成	出前講座的に各地に出向き、県連合青年会が主体となり、各地域に住む青年と語り合い、青年団体の再構築を図るためのリーダー育成を支援します。	1月19日(土)～20日(日) 会場: 未定	